

佐賀市バイオマス活用推進計画
(佐賀市バイオマス産業都市構想)

目次

第1章 本市の概要

1-1 本市の現状	1
1-2 経済的特色	2
1-3 社会的特色	6
1-4 地理的特色	8

第2章 本市のバイオマス利用の現状と課題

2-1 バイオマス利用の現状	10
2-2 バイオマス利用の課題	11

第3章 目指すべき将来像と目標

3-1 バイオマス産業都市を目指す背景	12
3-2 バイオマス産業都市として目指すべき将来像	13
3-3 バイオマス産業都市として達成すべき目標	14

第4章 事業化プロジェクトの内容

4-1 平成26年度に具体化できるプロジェクト	15
4-2 5年以内に具体化できるプロジェクト	20

第5章 地域への波及効果

5-1 地域のバイオマス利用率	25
5-2 再生可能エネルギー調達率	26
5-3 関連産業の創出規模	26
5-4 その他波及効果	27

第6章 実施体制及びフォローアップの方法

6-1 実施体制	28
6-2 フォローアップの方法	28

第7章 他の地域計画との有機的連携

	29
--	----

第 1 章 本市の概要

1-1 本市の現状

本市は、脊振・天山山系の山麓部の山林や清流、古代肥前の国の行政府跡「肥前国庁」、中心部の長崎街道に代表される歴史遺産や佐賀城公園、日本の近代化を先導した「幕末維新期の佐賀」の魅力を紹介している佐賀城本丸歴史館、筑後川にかかる昇開橋や佐賀平野に広がるクリークや田園風景、豊饒の海と言われる有明海など素晴らしい環境に恵まれている。

本市では、平成 20 年に環境保全及び創造に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、環境の保全などに関する基本的な計画として「佐賀市環境基本計画」を策定し、本市の将来像である“人と自然が織りなす「やさしさと活力にあふれるまち さが」”の環境分野からの実現を目指し、取組みを行っている。また、平成 22 年に「佐賀市環境都市宣言」を行い、様々な分野において市民、事業者、行政などが協力し、重点的に環境の取組みを進めている。

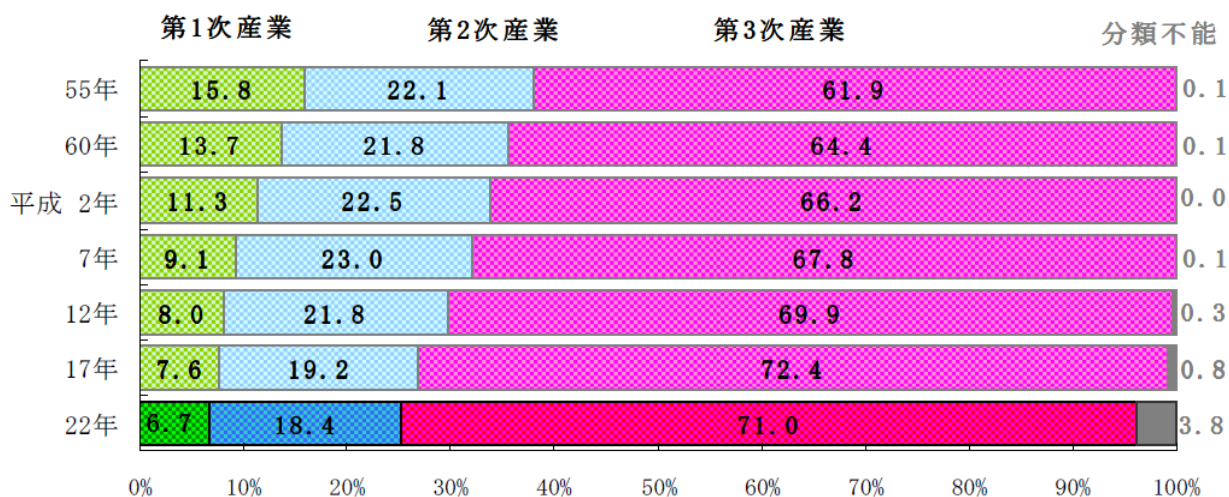
【環境に関わる取組み】

本市では、下水浄化センターと清掃工場から生じるバイオマス資源を有効活用しており、これまで取り組んでいるバイオマス資源の有効活用については、「第 5 回国土交通大臣賞 循環のみち下水道賞（平成 24 年度）」、「第 15 回日本水大賞 未来開拓賞（平成 25 年度）」を受賞するなど内外から高い評価を得ているが、「バイオマス産業都市構想」の策定により、さらに新たなバイオマス資源を未来型へと進化させ、新たなエネルギー創出を産業振興に活かし、本市の更なる活性化を図っていくところである。

また、間伐材の利活用の取組みとして、佐賀市役所では平成 21 年から、全部署で大量に使用するコピー用紙の調達物品として、地元佐賀市産を含む九州の間伐材を使用したコピー用紙を選定している。本取組みにより、地球温暖化防止、森林の整備促進が図られ、幅広く環境や地域に貢献できる調達政策と評価されており、「第 13 回グリーン購入大賞 環境大臣賞（平成 23 年度）」を受賞した。

1-2 経済的特色

平成22年の国勢調査によると、本市の産業人口比率は第1次産業6.7%、第2次産業18.4%、第3次産業71.0%となっている。本市では、第1次産業の人口比率が年々減少し、第3次産業の人口比率が増加しており、就業構造の変化がみられる。

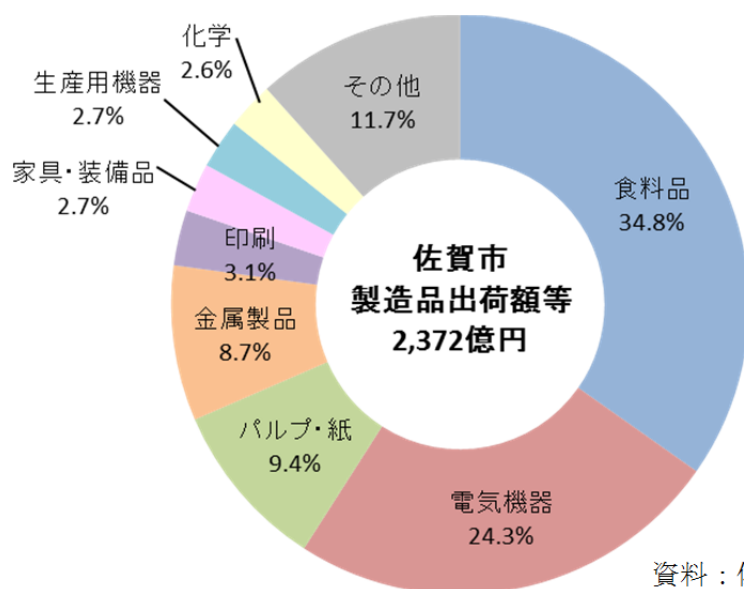


資料：平成22年国勢調査

図1-1 産業構造の推移

本市の製造業は生活関連型の企業立地が多く、図1-2に示す佐賀市製造品出荷額の比率をみると、食料品が約35%を占めており、本市の主産業として位置づけられる。

一方、自動車産業の北部九州集積が進むなか、本市には一次部品企業である自動車ランプ製造企業が進出し、今後も引き続き、自動車関連企業の進出が見込まれている。



資料：佐賀市統計資料

図1-2 佐賀市製造品出荷額等（平成22年）の比率

1-2-1 農林水産業

(1) 農業

本市の農業は、稲作・麦作の土地利用型農業が中心であり、米、麦、大豆の作付面積はいずれも県内1位である。また、地理的特性を生かした野菜、果物の生産も盛んであり、平野部ではアスパラガス、なす、きゅうり、トマト、小ねぎ、いちごなどが栽培され、山間部では、ほうれん草、レタス、ピーマン、みかんなどが栽培されている。

(2) 林業

本市の森林面積は、市の総面積の42%（17,858ha）を占めており、うち民有林の人工林率は79%と全国平均の46%と比べ非常に高い地域となっている。本市の人工林の多くは、木材として利用可能な50年生前後（10 齢級）になっており、この貴重な木材資源を適正に管理し、有効活用する必要がある。しかし、手入れが行き届いていない森林が顕在化しており、森林の持つ多面的機能を発揮させるために適切な森林整備が必要となっている。

本市では、平成25年3月に「佐賀市森林・林業再生計画」を策定した。これに基づき、森林の適切な維持管理を行い、健全な森林に育てていくとともに、木材の安定供給体制の再構築と間伐材利用を促進し、森林・林業の再生を目指している。

(3) 水産業

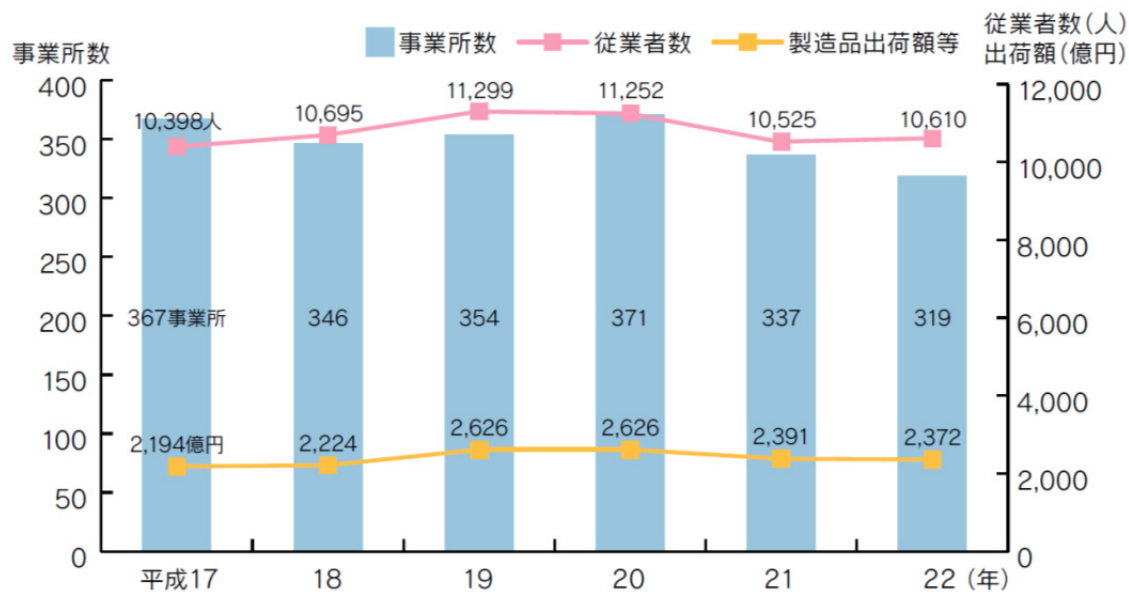
本市では有明海でのノリの生産が盛んであり、本市の漁業経営体のうち約82%※がノリ類の養殖を営んでいる。また、平成25年度のノリ類の生産額は約132億円となっており、11年連続日本一を誇っている。

※出典：農林水産省「2008 漁業センサス」

1-2-2 商工業

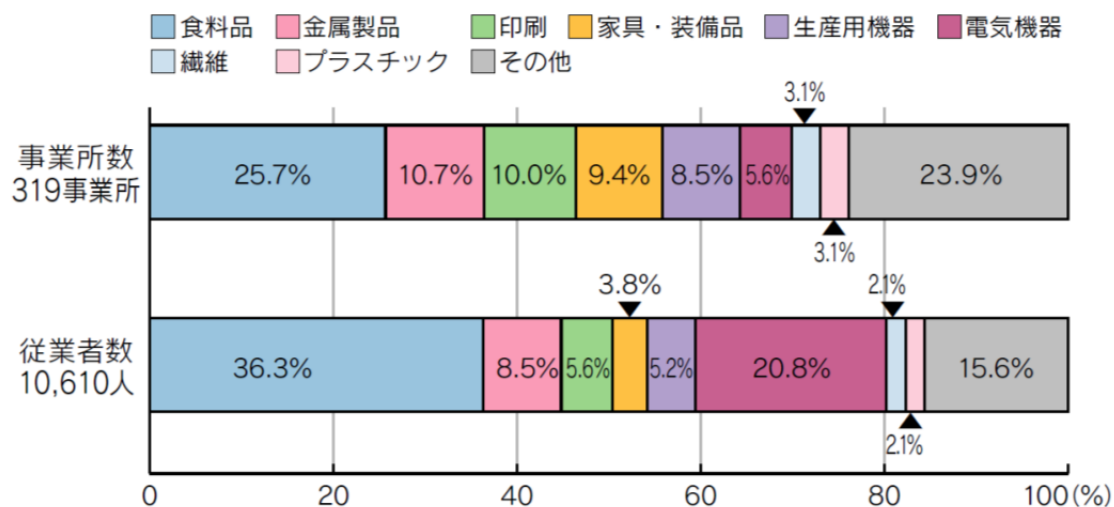
(1) 工業

本市の工業の事業所数・従業者数（平成22年）は、図1-3に示すとおり、従業者4人以上の事業所が319事業所、従業者数10,610人となっている。本市の工業の分野別構成比から、食料品製造業の比率が高くなっていることが見受けられる。



資料：経済産業省「工業統計調査」

図1-3 佐賀市の工業の推移（従業員4人以上）

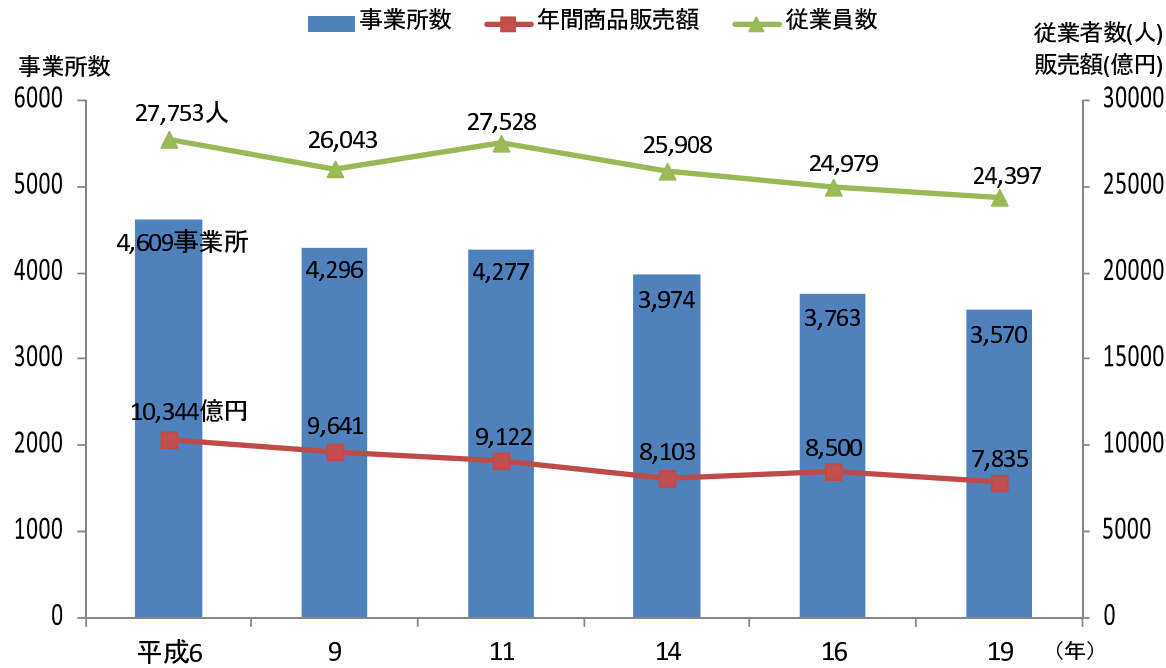


資料：経済産業省「工業統計調査」

図1-4 佐賀市の工業の事業者数、従業員数構成比（平成22年）

(2) 商業

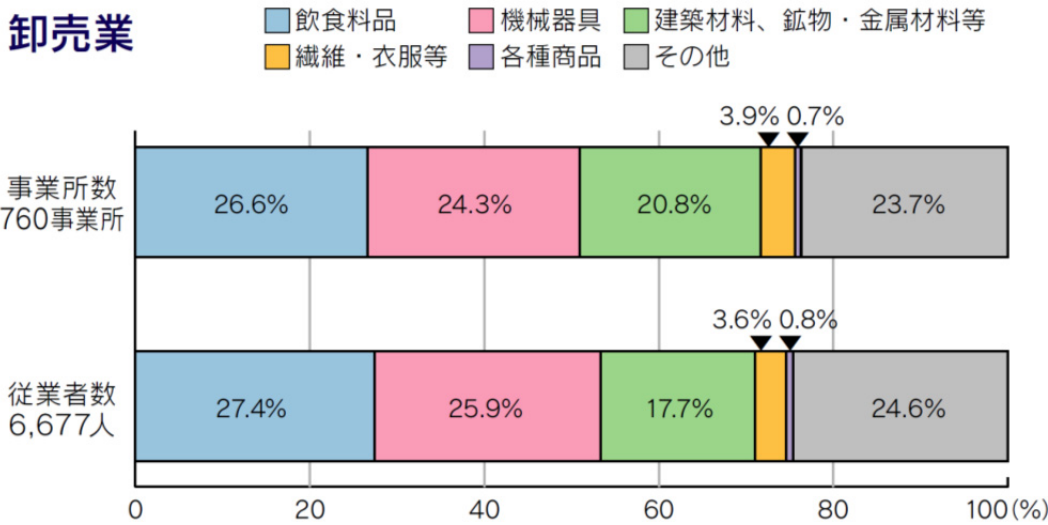
商業の事業所数・従業者数（平成19年）は、図1-5に示すとおり、事業所が3,570事業所、従業者数24,397人となっている。うち卸売業が760事業所、従業者数6,677人、小売業が2,810事業所、従業者数17,720人であり、分野別構成比では、卸売業、小売業ともに、飲食料品の比率が高くなっている。



資料：経済産業省「商業統計調査」

図1-5 佐賀市の商業の推移

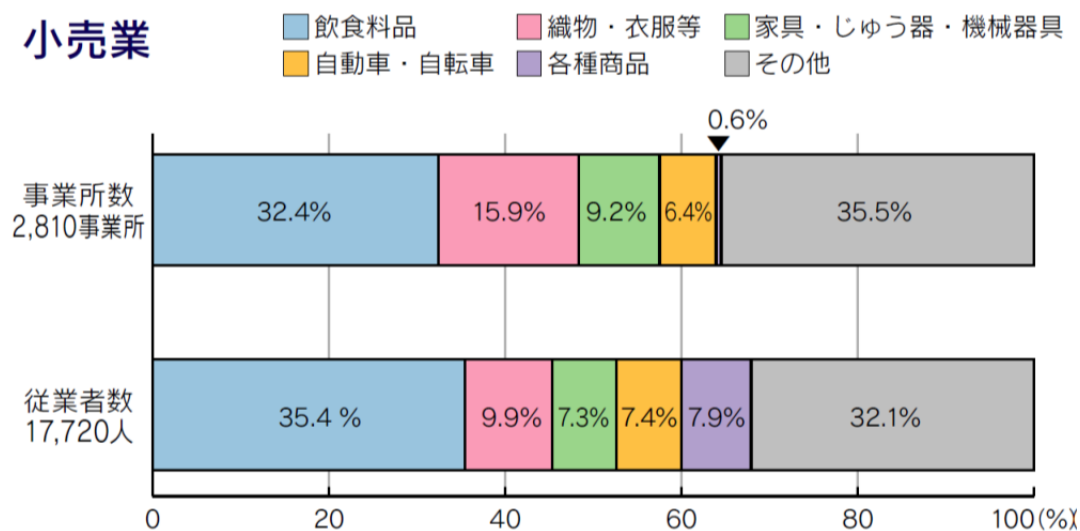
卸売業



資料：経済産業省「商業統計調査」

図1-6 商業の事業所数・従業者数の構成比（卸売業・平成19年）

小売業



資料：経済産業省「商業統計調査」

図 1-7 商業の事業所数・従業員数の構成比（小売業・平成 19 年）

1-3 社会的特色

平成 17 年 10 月 1 日に佐賀市、諸富町、大和町、富士町、三瀬村が合併し、新しい佐賀市となった。その後、平成 19 年 10 月 1 日に佐賀市と川副町、東与賀町、久保田町が合併し、現在の佐賀市となっている。

1-3-1 人口・世帯数の推移

本市の人口は 237,506 人、世帯数 90,435 世帯となっている。人口は、平成 7 年をピークにその後わずかながら減少しているが、世帯数は、増加傾向を示している。1 世帯あたりの人員が昭和 55 年の 3.43 人から、平成 22 年には 2.63 人に減少しており、核家族化が進んでいる。